

FP試験対策 | 6つの係数 判断シート

終価係数・現価係数・年金終価係数・減債基金係数・資本回収係数・年金現価係数を「問題文の目的」から選ぶ

使い方：係数名を丸暗記する前に、問題文が「増やす」「割り引く」「積み立てる」「取り崩す」「毎年いくら？」のどれを聞いているか確認します。

迷ったら、まず 一括のお金 か 毎年の出入り かに分けると判断しやすくなります。

1 6つの係数 早見表				
係数	何を求める？	問題文のキーワード	覚え方	生活でのイメージ
終価係数	今あるお金が、将来いくらになるか	現在の100万円を、年〇%で〇年運用	一括で預けて、未来へ増やす	今ある資金を運用した将来額
現価係数	将来必要なお金を、今いくら用意すればよいか	〇年後に100万円ほしい。現在いくら必要？	未来のお金を、現在へ戻す	将来の教育費・老後資金の現在価値
年金終価係数	毎年積み立てると、将来いくらになるか	毎年〇万円を〇年間積み立てる	毎年積立 → 未来の合計	NISAなどの積立投資の将来額
減債基金係数	将来の目標額のために、毎年いくら積み立てるか	〇年後に100万円準備。毎年いくら？	目標額から逆算して積立額を出す	教育費・車購入資金の準備
資本回収係数	今あるお金を、毎年いくら受け取れるか / 借入金を毎年いくら返すか	100万円を〇年間で取り崩す。毎年いくら？ / 借入金の返済額	現在のお金を毎年に分ける	住宅ローン返済額・退職金の取り崩し
年金現価係数	毎年受け取るお金の現在価値はいくらか	毎年〇万円を〇年間受け取る。現在価値は？	毎年の受取を現在にまとめる	年金・家賃収入などの現在価値

2 試験本番で迷ったときの3ステップ	
STEP 1	問題文は「一括のお金」か「毎年のお金」かを確認する。
STEP 2	「今から将来へ増やす」のか、「将来から現在へ戻す」のかを確認する。
STEP 3	「将来額を求める」のか、「毎年必要な金額を求める」のかを確認する。

3 キーワード別 判断メモ		
問題文の表現	選ぶ係数	判断のコツ
「現在の〇万円を運用すると将来いくら？」	終価係数	今ある一括資金を未来へ増やす。
「〇年後に〇万円必要。今いくら必要？」	現価係数	将来必要なお金を現在に戻す。
「毎年〇万円積み立てると将来いくら？」	年金終価係数	毎年の積立額から将来合計を出す。
「将来〇万円作るには毎年いくら積み立てる？」	減債基金係数	目標額から毎年の積立額を逆算する。
「借入金を毎年いくら返済？」	資本回収係数	現在の借入金を毎年の返済額に直す。
「毎年〇万円受け取れる権利の現在価値は？」	年金現価係数	毎年の受取を現在価値にまとめる。

FP試験対策 | 6つの係数 判断シート

例題で確認しながら、実生活のお金の考え方にもつなげる

4 ミニ練習問題		
No.	問題文	選ぶ係数
1	現在100万円を年2%で5年間運用した場合、5年後の金額を求めたい。	終価係数
2	5年後に100万円を準備したい。年2%で運用できる場合、現在いくら必要か。	現価係数
3	毎年20万円を5年間積み立てると、5年後にいくらになるか。	年金終価係数
4	5年後に100万円を準備したい。毎年いくら積み立てればよいか。	減債基金係数
5	1,000万円を20年間で取り崩す場合、毎年いくら受け取れるか。	資本回収係数
6	毎年60万円を10年間受け取る場合、その現在価値はいくらか。	年金現価係数

5 実生活へのつながり		
場面	関係する係数	考え方
教育費の準備	減債基金係数・年金終価係数	目標額から毎年の積立額を考える。すでに積立中なら将来額も確認する。
老後資金の取り崩し	資本回収係数・年金現価係数	退職後に毎年いくら使えるか、将来の受取額を今の価値で見る。
住宅ローン返済	資本回収係数	借入額・金利・返済期間から、毎月返済額や家計への影響を考える。
資産形成	終価係数・年金終価係数	今ある資金や毎月積立が、将来どのくらいになるかを確認する。

6 | 資本回収係数は住宅ローンの考え方にもつながる

住宅ローンは「借った金額を返済年数で割ればよい」という単純なものではありません。実際には、残っている元本に利息がかかります。

FP試験で学ぶ資本回収係数の考え方は、借入額・金利・返済期間から返済額を考えるとときにも役立ちます。

住宅ローンを借りる前、または返済中に不安がある場合は、家計全体で無理がないか確認することが大切です。

7 最後に確認するポイント	
☐	係数名ではなく、問題文の目的から判断できるか
☐	一括のお金か、毎年のお金を区別できるか
☐	現在から将来へ増やすのか、将来から現在へ戻すのかを確認できるか
☐	住宅ローン・教育費・老後資金など、実生活のお金にもつながる考え方として理解できるか

FP試験の知識を実生活でも考えてみる

FP試験で学ぶ係数は、住宅ローンや資産形成、老後資金を考えるときにもつながっています。

住宅ローンでは「いくら借りられるか」だけでなく、無理なく返し続けられる金額かを考えることが大切です。

住宅ローンの借りすぎは危険？ 無理なく返せる金額の考え方を読む